

# 有限会社オフィス・マッチング・モウル

## ～ 三河・佐久島アートプラン21～

調査団体名	： 有限会社 オフィス・マッチング・モウル(通称 モグラ屋)	団体代表者名	： 内藤美和
設立年	： 1999年(2001年有限会社化)	対応してくれた人の名前	： 内藤美和(代表)、池田ちか(取締役)
団体URL	： <a href="http://www.m-mole.com">http://www.m-mole.com</a>		
活動拠点	： 岡崎市(会社所在地)	調査員	： 近藤朗、高橋伸夫、太田修
取材日	： 2018年12月18日	レポート作成者	： 近藤朗

### 活動内容・経緯

1999年、アートを通じて知り合った内藤さんと池田さんが、現代美術に関するコーディネート&プランニング事務所として、岡崎市に「オフィス・マッチング・モウル」を設立。

その少し前から幡豆郡一色町(現西尾市)では、人口減少が進む佐久島において離島振興対策を進めるため、活性化ビジョンを策定、推進母体となる島民有志による「島を美しくする会」が1996年に設立された。その柱として始まったのが「アートによる島おこし」である。これには当時の国土庁・離島振興調査委員会「よい風が吹く島が好き女性委員会」(素敵な名前!)が関わっている(島民が気付かない島の魅力を外部から提言、女性の視点による)。

2001年から「マッチングモウル」が本格的にこの佐久島と関わることとなる(受託)。単に島でアートを配置するのではなく、島の魅力も同時に発信すべく「佐久島体験 祭りとアートに出会う島」を掲げ、以後リニューアルされたプロジェクトが「三河・佐久島アートプラン21」である。真の意味で、アートと「島を美しくする会」島民とのコラボレーションが始まったといえる。以下のような具体的な取組みを企画・展開したが、これはごく一部であり、様々なプロジェクトが現在も進行中。

- 2001年に島内調査を実施、佐久島体験マップ(2002 宝島の地図! )、佐久島弘法散策地図の作成
- 佐久島空家計画/大葉邸(2001~2008 平田五郎)
- 佐久島弘法巡り+アートピクニック(2002~)
- 「どこかおかしい。」展覧会(2003 松岡徹)
- アート/「おひるねハウス」(2004 南川祐輝)、
- 「カモメの駐車場」(2005 木村崇人)、「イーストハウス」(2010 南川)、他多数
- 太鼓まつり(島の楽団)、弁天まつり、佐久島の雛まつり



おひるねハウス

### キャッチフレーズ

エレガント & まごころ(社訓)

内藤美和代表(左)  
池田ちか取締役(右)



### 会のモットー(何を大切にしているか)

- ・ 仕事をする時には、その土地を知り(町誌・市誌などを読み、現場も見て)、地域の声を聞きながら進める  
～ 地域の人たちに誇りを持ってもらいたい
- ・ 十分なアフターケア ～ その場限りではない仕事を目指す
- ・ 作品を通じて、あくまでアートの精神を届けるのが仕事

### 連携している団体・専門家・自治体など

西尾市(旧幡豆郡一色町)、島を美しくする会(佐久島島民)、様々なアーティストたち

【参照】山村再生担い手づくり事例集Ⅱ(2015.3月) Oyaoya Café「もんぺまるけ」神谷芝保さん  
山村再生担い手づくり事例集Ⅲ(2016.3月)「島を美しくする会」鈴木喜代司 会長

## 佐久島アートプラン21開始から現在に至るまで変化したこと

- 「アートによる島おこし」(1996)以前; 島人口の減少  
1950年 約1,600人 → 1995年 約400人(2018 現在は約 230人)
- 1996年 「島を美しくする会」設立; 「アートによる島おこし」がスタート
- 2001年 「三河・佐久島アートプラン21」として再スタート; オフィス・マッチング・モウルへの年間事業委託開始  
「おひるねハウス」が出来たのが2004年、この頃より様々な情報誌が佐久島をアートの島として取り上げるようになり、都会から若い観光客が訪れるようになってきた。
- 2007年 幡豆郡一色町役場に佐久島振興室が設立; 佐久島に関する担当部署一元化される
- 2010年 神谷芝保さんが名古屋から通い(後に佐久島定住)、カフェ「もんべまるけ」を開業、さらに島に嫁いだ加藤麻紀さんが2014年に「café OLEGALE」を、佐久島に魅せられた中村眞由美さんが移住し2016年に「カフェ百一」をオープンさせた。3人は若者たち定住のためにも立ち上がり、マルシェ「39の市」を開催。
- 2011年 4月、西尾市と一色町(幡豆3町共)が合併; 佐久島振興(室)課は継承される  
佐久島アートは合併前既に認知されていたが、この時期あたりから観光客が目立って増加。  
島の雰囲気も変わってきたという。
- 2012年 島内弘法大師再生完了「佐久島弘法 八十八箇所巡り」完全復活する
- 佐久島への渡船利用者数(観光客)の増加 2008年度まで概ね5万人 → 2015年度 10万人突破  
渡船が黒字となり、便数も増やした
- 2018年 SNS映えスポットランキング(投稿数)で全国 5位となる

一番大きな変化として、島の若者たちも含め「出身地が佐久島」であることを、誇りを持って言える様になった。

## 流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動(例: 小仕事づくり、地域資源の活用など)

佐久島に関するマッチングモウルの仕事は、まち(島)づくりに十分寄与しているものとして取材に臨んだのであるが、内藤さんは「それは違います。まちづくりが私たちの仕事ではなく、観光事業として捉え、その分野での協力である。」とのこと。その真意については、過去の記録での内藤さんの発言を読んでいて理解できた。

「当時、私たちが一色町から与えられたミッションは、交流人口の拡大であり、その目的は達成できたと思います。この観光客の増加に対し、いかにビジネスを展開し、島の活性化につなげるかは、島民のみなさんにかかっていると思います。私たちは、島おこしのための環境づくりをさせていただいたわけです。」

(2011総務省 定住促進レポート 愛知県一色町佐久島「アートによる島おこし」より)

マッチングモウルが交流人口の拡大、島民が島おこし・定住促進を担うという役割分担を明確に意識されている。

内藤さんは、アートプラン21を「島の豊かさを伝えるプロジェクト」と位置づけ、まず戦略的にターゲットを都会などからの質の良い若者達に絞った。彼らは非常にマナーが良く、その場所にしかないお洒落なものや美味しいものには、お金を惜しまない。さらにSNSによって情報(インスタ映えする写真など)を広く発信し、広告費などのお金をかけずに、佐久島のアートな魅力が全国レベルで拡散されたのである。結果として島の魅力に惹かれた若者達などが「カフェ3人娘」として定住するようなケースも出てきている。

地域の担い手を島の魅力と呼び寄せることがマッチングモウルの使命、担い手づくりはあくまで島民自らが行うという自立的なシステムですね。「地域の方々に誇りを持ってもらいたい」と強く仰られている。

さらに、本当の佐久島を楽しめる島づくりを目指したい。そのためには、一度のイベントに何万人が来るよりも、100人が365日訪れた方が良いとのこと。それを念頭において様々な企画を展開している。「佐久島アートピクニック」にしろ何年も続く通年の企画であり、島内全域に宝物が散りばめられている。

## 現在直面している課題

島内ではレンタサイクルを借りて島巡りができるようになっており、佐久島の魅力の一つとなっている。ただし最近、自転車でもわる観光客が増えてきて、ちょっと雰囲気(マナー)が悪化していると感じる。本当は、島独自の条例づくりが必要かなとも思っている。

## 今後やってみたいこと / 佐久島・アートプラン21として

「三河・佐久島アートプラン21」としては、20年ほど続けてきて客も島民も行き過ぎた部分がある。もっと島の本来の自然、魅力を感じながら「歩いてまわる島」を目指そうかな。スタンプも看板もない新しいコースがいい。「佐久島体験マップ」も2002年発行以来、どんどん進化を続けている。(最新版は2018.2月に改訂) まだ知られていない佐久島の自然や地域資源について詳しい方がいたら、紹介して下さい。(内藤) また、木を使った企画、アートについても興味があり、根羽村森林組合の今村豊さんとも話をしてみたい。(池田) (別な企画で、「奏林舎」の唐澤晋平代表とは、既にコラボされているとのこと)

## そのためにはどんな情報・人脈が必要か ~ 担い手事例集取材チームからの提案(2018/12/18)

矢作川流域圏懇談会では、今年度 2018年4月14~15日、マッチングモウルの内藤さん、池田さんにも来ていただき「流域圏担い手づくり事例集交流会 2018」を開催しました。その中で(2日目)、事例集取材チームでもある野田賢司さんの案内で「佐久島エコツアー」を実施しました。野田さんは佐久島をよく訪れ、地形・地質、環境に詳しく、また野鳥の分野では、本取材に同行している西三河野鳥の会の高橋伸夫さんが第一人者であり、何度となく佐久島での探鳥会を実施しています。

今回の事例集刊行後(3月以降)にでも、具体的な打合せをしましょう。

根羽村森林組合の今村豊さんについても、同様に現地(根羽村)にて可能性を探りましょう。

## オフィス・マッチング・モウルとして 佐久島以外の事業、これからやってみたいこと、課題など

美術館での展覧会の企画・製作、あいちトリエンナーレ地域展開事業以外にも、歴史の里しだみ古墳群アートプロジェクト(主催:名古屋市/ガイダンス施設「しだみゅー」が2019.3月末オープン)、岡崎三十六地蔵巡り地図、刈谷城今昔物語(刈谷市の歴史・観光ガイドパンフレット)の制作など、地域の魅力を再発見するアートプロジェクト、地図・観光パンフレット制作に関わってきた。

### 【今後について】

子どもたちとアートを繋げる仕事をしたい by 池田ちか

### 【課題など】

当社の仕事は、十分な調査と調整、アフターケアをモットーとする手間ひまがかかるもの。これからもこれをしていくためには、もう少し見合った予算(お金)をいただきたいな by 内藤美和(代表)



2018.12.18 岡崎市内オフィス・マッチング・モウルにて取材風景



2018.4.15 佐久島「もんぺまるけ」にて

右奥が 神谷芝保さん



2018.4.15 佐久島住宅から三河湾を望む



佐久島ナビステーション「知識の蜂の巣」



佐久島体験マップなどの発信ツール



2019.1.22 佐久島の風景を歩く

▽かもめの駐車場                      イーストハウス  
大葉邸周辺 黒壁の集落              弁天サロン(内部)

